

2020年度 独創的研究助成費 実績報告書

2021年3月31日

報告者	学科名	造形デザイン学科	職名	准教授	氏名	山下 万吉
研究課題	授業での学生の質問を促すデジタルツール開発に際しての予備調査					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	山下万吉	造形デザイン学科	映像デザイン		
	分担者					
研究実績の概要	<p>本研究の目的は「授業での学生の質問を促すデジタル支援ツールの開発」するための予備調査である。このツールの開発を通して「匿名且つスマホからの入力であれば授業中の質問がより促される」のではないかと、また、既存の先行事例（リアルタイムアンケートツール）を調査しつつ、「どのようなデジタルツールであれば、より効果的に質問が促されるか」について検証していきたい。</p> <p><調査・研究計画> 当初、4～6月に開講予定であった自身の担当授業（対面／講義2科目）を通して、既存のリアルタイムアンケートツールについての予備調査を行う予定であった。また、調査を踏まえた上でデジタルツールの試作版（簡易版）を検討し、外部委託による試作を検討していた。しかし、コロナの影響による2020年度4月からの対面授業の開講休止により、スケジュールと研究内容の計画変更を余儀なくされた。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p><研究内容></p> <p>① 先行事例の調査 リアルタイムでアンケートを集計するデジタルツールの先行事例を調査した。 「imakiku」「respon」など、様々なサービス（有料/無料）があるが、アプリのダウンロード、暗証番号の入力など、学生側にとっては手間多く煩わしい。また、見せたくない質問を削除する機能等がなく、安全に授業で使えるとは言い難い。早稲田大学が独自で使用しているオンラインシステム「Course N@vi」においては、授業用に指定したハッシュタグを添えて文章を投稿すると関連投稿を一覧で読むことができる、という機能がある。学生はツイートするだけで、先述のサービスより手間が少ないが、匿名性が担保されているわけではない。</p> <p>調査を進める中、コロナの影響によるオンライン授業本格化に伴い、オンラインサービスと併用したオンライン授業用コミュニケーションツールも開発され始めた。</p> <p>② 既存デジタルツールを用いた予備調査 既存ツールの中から、もっともシンプルなアンケートサービス「LiveQ(旧・handsup!)」を自身の担当授業「情報処理論 I（講義科目/9月より対面による開講/履修者76名）」で使用した。毎回授業開始前に、各階毎のWebブラウザ内ルームを作り、学生はルームに紐付いたQRコードを読み込むことで、授業中～授業終了後に授業内容に関する質問を“匿名で”書き込むことが出来る。ツールの使用感については、学生へミニッツペーパーにて使用感について意見を求めた。既存ツールの使用の中で、匿名性があることは、質問の書き込みを促すが、学生同士のコミュニケーションが始まるなど、管理者が予期せず、コントロール出来ない状況が発生することにも繋がった。</p> <p>③ デジタル支援ツール試作版の検討 教員側と学生側の使用感を踏まえた上で、既存ツールの改善点、修正点を洗い出し、“授業用に特化した”デジタルツールについて検討した（試作版・簡易版の着手には至らなかった）。</p> <p>基本的には、見せたくない質問や発言を管理者がコントロール出来る仕様が望ましい。且つ、なるべくシンプルな遷移を目標とし、「質問管理画面（公開承認画面）⇄質問一覧画面⇄個別の質問画面」という遷移を検討した。Webブラウザ完結型で、学生は匿名で質問を入力出来る。また、授業の進行中に個別の質問をピックアップ出来るようにするため、「個別の質問画面」を設けるデザインである。</p> <p><まとめ> 全国的な対面授業の全面的な禁止により、対面授業で使用する質問支援ツールの存在意義について、再考せざるを得ない状況であった。しかし、9月頃から、学生・教員共にマスクをしての対面授業を開始する中で、教員と学生と、また、学生同士のコミュニケーションの取りづらさを実感した。こうした状況は、この先まだまだ続くことが予想される。検討した質問支援ツールが、より一層役立つ状況にあるのではないだろうか。</p>
<p>成果資料目録</p>	